

第1回 “みん・なが” ミーティングを開催しました！

地域課題が複雑化・多様化するなか、市民協働をどのように広げ、実践につなげていくかは、これからのまちづくりにおいて重要なテーマです。そのためには、市民と行政が一方的な関係ではなく、同じ地域を支える当事者として向き合い、率直に意見を交わしながら理解を深めていくことが求められます。記念すべき今年度第1回は、「市民協働を、もっと広げていくにはどうしたらいいか？」をテーマに、ゲストスピーカーの磯崎真一氏を迎え、市民や市職員が立場を越えて意見を交わしました。

当日の様子

当日は、18名が参加しました。

グラウンドルールのもと、肩書きを置いて一人の地域住民として語り合い、ゲストスピーカーのお話をきっかけに、参加者同士がそれぞれの経験や思いを持ち寄りながら、対話を深めました。会場ではホワイトボードを使って意見を整理しながら、互いの考えを聞き合う、あたたかく活発な時間となりました。

今回の グラウンドルール

- ・フラットに意見交換しよう
- ・好奇心をもって人の話を聞こう
- ・聞くだけ参加もOK！



【行政窓口や相談の場について】

- ・市民は相談に行くとき、「うまく言葉にできないもやもや」を抱えていることが多い
- ・その思いや背景を、まず受け止めてくれる人が必要
- ・「何をしたいのか」を一緒に引き出し、提案してくれる窓口だと相談しやすい

【市民と行政の関係について】

- ・「行政課題」は行政だけのものではなく、地域で暮らす私たちみんなの課題として考えたい
- ・行政と市民を分けて考えるのではなく、同じ地域の担い手として関わるのが大切
- ・行政の仕組みや役割分担を知ること、より建設的な関わり方ができる
- ・お互いを“お願いする側・される側”ではなく、パートナーとして捉えることが大事



【協働を広げるために】

- ・相談や新しい動きに対応できる“余白”があることで、協働は生まれやすくなる
- ・行政側から「何に困っているか」を発信することで、市民も関わりやすくなる
- ・市民側も「自分ごと」として地域のことを考え、動いていく姿勢が大切
- ・立場を越えて率直に話せる場そのものが、協働を広げる第一歩になる

気づき

今回のミーティングでは、市民と行政が立場を越えて話し合うことで、普段は見えにくい思いや背景を共有することができました。

「行政のこと」「市民のこと」と分けて考えるのではなく、同じ地域で暮らす仲間として課題に向き合うことの大切さを改めて確認する場となりました。